



東京国際空港(羽田空港)D滑走路建設工事 ～年末年始も休みなし～

記者発表資料

国土交通省は、我が国空港ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』を平成22年10月の滑走路の供用開始をめざし、24時間365日の昼夜連続施工により最速で工事を進めています。

年末年始（平成21年12月25日～平成22年1月7日）においては、棧橋部でジャケット据付（3基）を予定しており、埋立部においては、陸上盛土工など外部からの資材に頼らない工事をメインに実施します。

現在、棧橋部では全198基中190基のジャケット据付が完了（進捗約96%）、埋立部（舗装工除く）では約96%の埋立柱投入が完了し、このうち最終工程となる揚土工（陸上盛土工）の約86%が完了しています。

また、現在の空港島とD滑走路を結ぶ、連絡誘導路橋（航空機用の連絡誘導路橋2本、作業用の場周道路橋2本）は、場周道路の一つが11月16日に開通し、工事用通路として使用を開始しています。また、航空機用の連絡誘導路橋の一つも桁架設完了（桁架設の約60%が完了）し、今後は舗装工をメインとして、残された工種の施工を鋭意進めていきます。

※揚土工（陸上盛土工）…護岸の外側から揚土船（リクレーマ船）を使用して山砂を揚土し、護岸の内側に陸上仮置きした後、陸上盛土先まで重ダンプトラック（50トン）等で運搬し、ブルドーザー敷き均し・転圧の後、振動ローラー（35トン）で振動締め固めを連続して実施するものであり、滑走路の強固な土台（路床まで）を造る重要な工事。その上部に舗装工事（路盤、舗装）を行い、滑走路の基盤面が完成する。今回の滑走路建設では、埋立部の天端高（最高値）が海面上A. P. + 17.1mであり、強固な陸上盛土工を確実に実施することが重要となっている。

平成21年12月22日（火）

国土交通省関東地方整備局 東京空港整備事務所

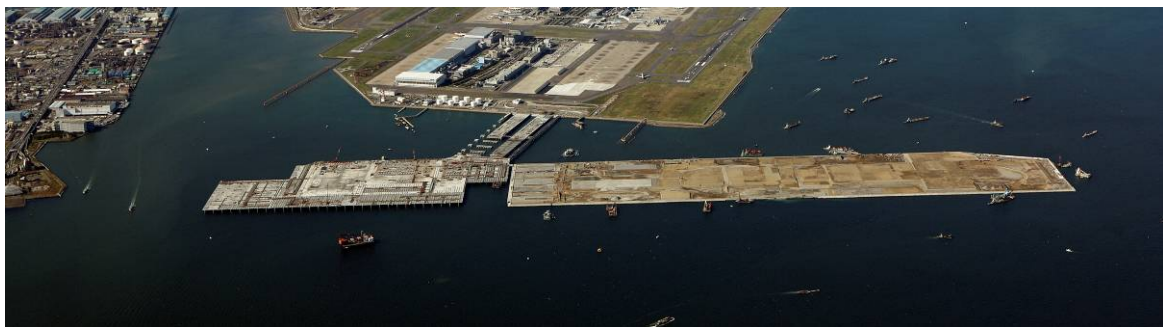
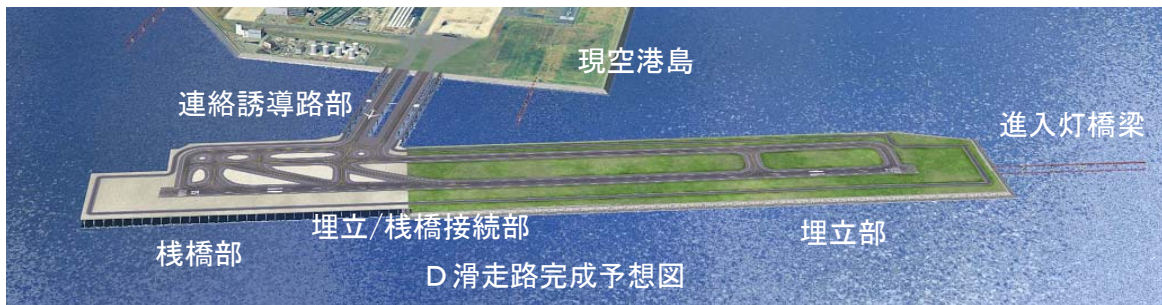
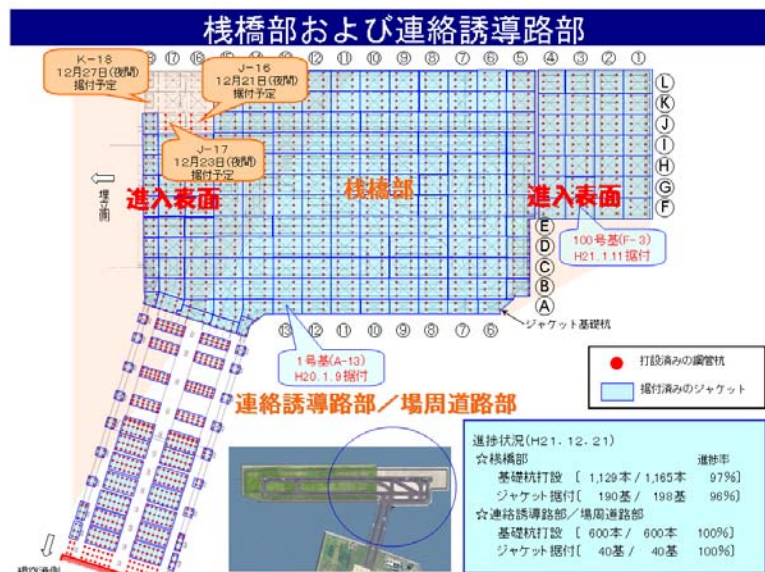
同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会
都庁記者クラブ 千葉県政記者クラブ 東京航空記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所
事業調整課長 北川俊治・第一調整係長 今隆之・腰原正士
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 メンテナンスセンターアネックス 5階
電話 03-5756-6573
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

◆ D滑走路は年末年始も休まず施工！◆



(上) D滑走路完成予想図 (資料：東京国際空港D滑走路外工事JV)
 (下) 上空から見たD滑走路建設現場。(2009年11月3日撮影)